



県民室に設置されたアカマツを利用したロビー用家具

県民室でベンチ体験

矢中町の
シオンなど 県産アカマツで新製品

マルヒ製材（日當粕 太郎社長）と久慈市と大手オフィス家具メーカーのイトーキ（平井嘉朗社長）と本社大阪府大阪市、国産自然塗料の製造・販売を行つシオン（石川公一郎社長）と矢中町は、設計、製作、シオンが国産自然塗料による塗装仕上げを担当した。復興庁が実施した地域復興マッチング「結の場」に、マルヒ製材とイトーキが参加したことがきっかけとなり、開発に至った。

県産のアカマツを利用したベンチなどのロビー用家具「ivas（アイヴァス）」を共同開発した。製品のうち、ロビーベンチ2台、スツール4台、ワークブース3台が31日まで、県庁1階県民室に展示される。

開発は、マルヒ製材が木材の調達と製材、イトーキがデザインと

アカマツの材木は、白さと木目の美しさが特徴として挙げられる。一方でマツ特有の「ヤニ」の発生という問題は、県工業技術センターなどと協力して解決。木材の香りと手触り、そして和風建築の建具を想像させるジヤパニース・モダンのデザインが、施設を訪れたソーシャルネット

ワークサービス（SNS）の利用者や海外からのビジネスマンらに、日本らしいおもてなしの空間を提供する。

シオンの石川社長は「アカマツには和風の藍色なども似合うと思うので、提案していきたい」と今後の展開を描く。マルヒ製材の日當社長は「今回のような家具は、これまでのアカマツの利用イメージにはない活用法。これを機に、アカマツの様々な利用が広がってくれたら」と願いを込めた。

県民室の開放時間は平日の午前8時半から午後5時15分まで。県民室での展示後は、アイーナなどでも展示される。

こぶし回しに郷土の花 ふるさと民謡舞踊まつり

栗石町

第25回栗石町ふるさと民謡舞踊まつり（同実行委員会主催）は5日、栗石町上曾根田の

午後5時15分まで。県民室での展示後は、アイーナなどでも展示される。